

東北縦貫自動車道関連公共事業
地内発掘予備調査概報

1 9 7 1

福島県教育委員会

ま　え　が　き

本県を巾50m、南北115kmで縦断する東北縦貫自動車道は、昭和48年完成を目指し、本年より県南地方で工事が始められました。

この建設工事に併行して、圃場整備事業が縦貫自動車道沿線の各地で計画され、すでにその一部は実施されておりますが、これらの地域の埋蔵文化財を適正に保存するため、昭和44年度より遺跡の所在調査と発掘調査の計画に必要な資料を得るための予備調査をしてまいりました。

この調査報告書は昭和45年度の結果をまとめたものです。この調査結果をもとに、すでに安達郡本宮町上原遺跡は、遺跡の現状保存と一部の発掘調査を実施し、予想以上の成果をあげております。これらの調査結果をじゅうぶん活用され、遺跡の保存に一層の努力をお願いします。

この調査のため、ご多忙中のところ調査を担当された調査員の方々をはじめ、調査にご協力いただきました地元市町村教育委員会、調査補助員、土地所有者各位に対して深く感謝の意を表します。

昭和46年3月

福島県教育委員会教育長

三 本 杉 國 雄

目 次

古 内 遺 跡	1
豊 城 遺 跡	1
熊 野 山 横 穴 群	1
九 山 古 墳	2
上 五 郎 遺 跡	3
八 頭 遺 跡	3
中 橋 遺 跡	4
上 橋 遺 跡	4
太 田 遺 跡	5
南 地 藏 谷 地 遺 跡	5
堂 山 古 墳 群	6
胡 桃 沢 遺 跡	6
鎌 倉 池 北 遺 跡	7
懸 居 面 遺 跡	7
矢 地 内 遺 跡	8
廣 祖 原 古 墳 群	8
深 谷 古 墳	9
見 物 祖 遺 跡	9
上 原 遺 跡	9
關 下 遺 跡	11
下 原 遺 跡	12
南 下 原 遺 跡	12

古 内 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師散布地
- 2 所 在 地 白河市小田川字古内1
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

国道4号線の東側、小田川部落にある宝積寺東北300mの畑一帯に土師器片の散布がみられる。国道より30m東へ入り、西南にかるく傾斜している地形で表土下0.5mでローム層に達し、遺物包含層は0.2m。

張り床のある住居跡と床面より土師器片を検出している。

本調査では遺跡の中心部に南北に3m巾×30mのグリット2本設定し、遺構検出後拡張し精査する。近くにある小田川支所を宿舎とし、用具はペルコンと普通の用具で調査できる。

豊 城 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師散布地
- 2 所 在 地 西白河郡西郷村小田倉字豊城41
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

相川雅郎氏宅の北側の畑が遺跡で、周囲の田よりやや高くなっているが、昨年までは米作していたとのこと。付近には相当の規模の土師の散布地があったが、開田で消滅している。

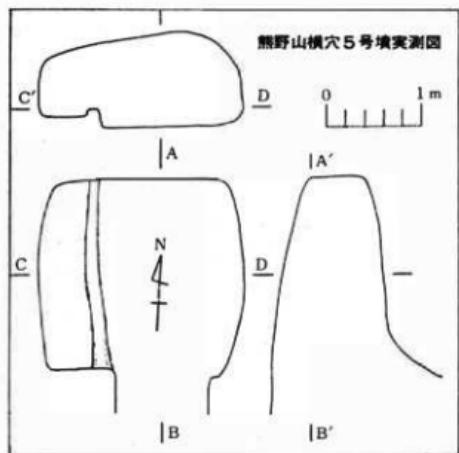
散布は20m×10mにみられるが予備調査では東西に巾1m×8mのトレンチを設定した。

トレンチ内よりは一片の土師片も検出できず遺構も確認できなかった。開田時に近くの土師片が混入したものと思われる。

本調査の必要はない。

熊 野 山 横 穴 群

- 1 遺跡の種別 横穴古墳群
- 2 所 在 地 岩瀬郡鏡石町大字鏡田字熊野山
- 3 調査担当者 小池利意
- 4 遺跡の概要



さの玄室である。床面より天井までは、1.08m玄室奥の天井部は、厚さ0.2m落盤している。

この横穴の上部の岩場の中央には、現在文字は不明であるが磨崖仏があつたらしく、この右下に横穴の玄室の床面と認められる痕跡が残されている。西側は土砂によって埋められている横穴状の穴がある。水路付近をボーリングにより探査したが、水路に防げられ確認できなかった。開口横穴の左右には、2m離れて深く入る落込みがあったが発掘不可能であった。

丘陵南斜面に縦穴といわれている開口している横穴がある。現在調度部は崩れて玄室内部には土砂が流入しているが、保存状態は非常に良好なものである。玄門は巾1m、玄室に入ると右手は0.1m広くなり、左手は0.7m、広くなり奥行き2m、中央部において、巾2.2mの正方形を呈するものである。玄室左手側壁には、長さ1.8m、巾0.5mの棺座を作り付けてある。天井はアーチ形をし、玄室床面は玄門に向って20°の傾斜をなしている。現在調度部は崩れてしまっているが、前庭部は埋もれている。

この横穴群は、は塁整備事業により水路の拡張がなければ保存も可能であり、この横穴群の外に鏡石町には横穴の存在も知られていないので、是非保存してほしいものである。

鏡石駅の北西方約1500m南北にのびた熊野山とよばれる丘陵がある。この丘陵の西と南の斜面中腹より、山麓部の松林中に開口した横穴がある。

西側には横穴2基、崩壊したもの3基、横穴らしい落込み2ヶ所がある。これらは丘陵西下の水路工事により開口したものである。U字形コンクリート水路の上端が、横穴玄室とはほぼ同じレベルにあるもので、床面は約1m深くなっている状態で、調度部は水路の下に位置している。このため漏水が多く玄室内部の土砂を掘り出すことは不可能であるが、横穴は水路側壁より0.3m入ったところに玄門が巾0.4mであり、これより左右に0.07m広くなり、奥行き1.6m巾0.95mとなる広

丸 山 古 墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 郡山市安積町成田字丸山
- 3 調査担当者 田 中 正 能
- 4 遺跡の概要

標高249m、奥羽脊梁山脈分水嶺の東にのびきった洪積台地上の南面にある微高地に於ける旧成田村の神社森で、杉林の中にこの古墳がみられる。かって3基の円墳が存在したが、昭和38年ごろ2基の古墳が開墾によって破壊され、直刀、刀子、土師器、須恵器が出土したといわれる。のこる1基の円墳は、径20m、高さ2.5m、墳丘頂部に石の割があったため破壊はまぬがれている。付近の畠よりは、農耕のたび土師器なり・こしき・つば・須恵器なり・かめ・つぼ・焼土など検出され、相当数の集落があつたものと考えられる。

工事の進度に併行して、のこる1基の円墳と土師、須恵の散布地の畠地の調査をし、土師、須恵時代の集落の究明にあたりたい。

本調査は、トランシット測量を中心に記録保存をし、工事と併行し発掘調査をする。発掘工程は、測量、現状撮影、樹木伐採、抜根し住居跡群および古墳の内部構造の発見につとめたい。トレンチ発掘なのでベルコンの準備も必要である。

上五郎遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文 土師 須恵散布地
- 2 所在地 郡山市三穂田町川田字御靈
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要

川田部落北西、標高250m前後の大根原状地が南東にのびた突堤丘陵上にある遺跡である。東斜面は松林で當神社が祀られ、その北西は畠地、南面および西面は近年水田となり耕作されている。

この遺跡は、丘陵部の頂部を境に、繩文中期の土器片、石器、石斧片と土師、須恵の散布がみられ、遺跡の規模は、100m×100mにおよんでいる。予備調査では、散布の濃い東面の畠地に1m×10mのトレンチを設定した。地表下0.5mで地山に到達し、遺構を追ったが、繩文土器片、土師、須恵片が出土したのみで地層の変化もみられず、トレンチ北端より西へ直角に5mのトレンチを東西にのばしたところ、焼土と柱穴を確認した。出土遺物は繩文中期土器片、石核片、石器、内黒土師片、須恵器片で、この周辺を拡張してみたが、住居跡の規模は確認できなかった。

上五郎は上御靈ともよばれており、この遺跡は、工事中出土品があれば精査したい。

八頭遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文 弥生 土師散布地
- 2 所在地 郡山市大根原町字八頭
- 3 調査担当者 田中正能

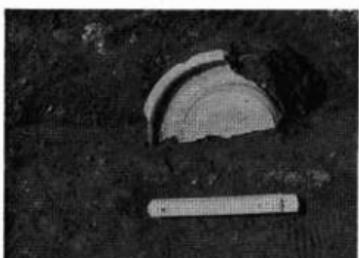
4 遺跡の概要

西勝ノ木部落東500m、標高220mのゆるやかな東南に斜面をみせる平坦地にあって、周辺は水田に囲まれた数高地2000m²が畠地、果樹園となっている。この一部に縄文、弥生、土師の散布がみられる。遺跡の規模は、約400aで、この遺跡の東に昭和45年8月調査した「中柵遺跡」がある。

遺跡の南部に、1×3mのピットを東西に5m間隔で4本設定する。いずれのピットよりも、土師の住居跡を検出したので埋め戻す。表土下0.5mで地山となるが、遺物は土師、須恵器片を中心に、縄文、弥生、石器、鉄器などみられる。

当遺跡は、中柵遺跡に隣接しており、中柵遺跡とともに、古代安積文化の中心地とし、また東北開拓の基地とも考えられる重要な遺跡である。工事計画より除外して現状保存を講じるか、十分な調査体制で綿密な学術調査を行なうか、いずれにしても大きな問題をかかえている遺跡である。

中 柵 遺 跡



写真は出土した円面鏡

県文化財専門委員梅宮茂氏が調査担当者となり、15日間にわたり調査が実施された。

円面鏡、墨書き土器、土師、須恵器とともに工房跡が検出されているので、こりの遺跡も全面発掘し中柵遺跡の全貌を明らかにしたい。

大規模な発掘になると思われる所以、地元に宿舎を用意し、運搬、連絡用の自動車も必要である。1m巾のトレンチを入れ、遺構を確認しベルコンを使用して拡張してゆきたい。

上 柵 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師 須恵散布
2 所在地 郡山市大槻町上柵

3 調査担当者 田中正能 永山倉造

4 遺跡の概要

大根公民館の西方の微高地にある遺跡で、水田となっている地域に、土師、須恵の散布がみられる。西には昭和45年8月調査した中横遺跡があり規模は数ヘクタールにも及ぶと推定される。畑や一部宅地化している地域には、焼土も確認されているところから、大集落群跡の可能性もある。表土下、0.1~0.4mで、遺物包含層に達する。大根公民館敷地造成時相当数の土師、須恵が検出されており、高速道敷地内の中横遺跡の調査結果などを考え、古代安積の中心地であったことも考えられる遺跡なので工事計画より除外し、現状のまま保存するか保存できない場合は十分な調査費を計上し調査体制、調査日程を組み、全面発掘調査をするようにしたい。

本調査では、2m巾の平行トレンチを入れ遺構検出後、ベルコンにより拡張し調査をすめたい。

太田遺跡

1 遺跡の種別 土師 須恵散布地

2 所在地 郡山市大根町大字太田字北地蔵谷地

3 調査担当者 永山倉造

4 遺跡の概要

この遺跡は太田部落より、胡桃沢に通ずる道路の北側にあり、新池の北西500mの水田の中にある微高地に土師、須恵器片が散布している。表土下0.45mで遺物包含層に達する。一部はローム層を削除して0.25mにわたり遺物層があるので遺構の発見は十分考えられる。

3m×40mのトレンチ2本入れ、遺構が発見されたら拡張、精査したい。トレンチは一輪車を使用し、精査はベルコンを使用したい。発掘面積、40m×10m、散布規模は約1.5ヘクタールである。

畑なので普通の用具とベルコンがあれば調査ができる。

南地蔵谷地遺跡

1 遺跡の種別 土師 須恵散布地

2 所在地 郡山市大根町大字太田字南地蔵谷地

3 調査担当者 永山倉造

4 遺跡の概要

美女池の東方200m、太田部落に通ずる道路の南側、周囲田に囲まれた微高地が遺跡で1000m²にわたって土師、須恵が散布している。太田遺跡が山下、太田間の道路によって分断されたもので、太田遺跡の調査の折一班を編成し、3×3mのグリットにより調査をしたい。用具は普通の用具とベルコンで調査できる。

堂山古墳群

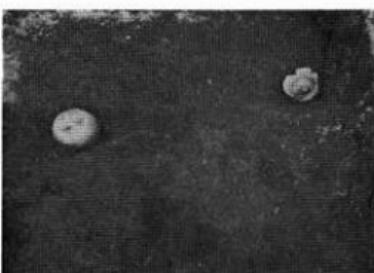
- 1 遺跡の種別 古墳群
- 2 所在地 郡山市大槻町堂山
- 3 調査担当者 渡辺一雄
- 4 遺跡の概要

大槻町本町の南方に東西に横たわっている堂山がある。この堂山の中腹と麓に、三十数基の円墳群がある。これら円墳群の大部分は、明治のはじめより開墾や盗掘により姿を消している。堂山の東麓にある二基を堂山東古墳群、北斜面と北麓にある数基を堂山北古墳群、堂山の山頂部と南斜面にある円墳群を堂山古墳群とよんでいる。この古墳群は、宅地のため破壊されたり、盗掘により大部分の封土の中央が凹んでいる。墳丘は径5~8m、高さ1~1.5mのものが多く、ボーリングによる探査では内部遺構が認められる。

古墳群の1基の中心部の盗掘で凹んでいる封土に、巾1m×3mのトレンチを入れる。封土下0.6mで内部遺構にあたる。中軸線を直西よりやや北に向かって石棺の底部が検出される。岩質は、古墳群の北西約3kmに産する葉山石を用いてある。盗掘により石棺の大部分は、破壊され副葬品も認められない。地主の話によると、曲玉、管玉、切子玉、直刀などが副葬されていたため、長年月にわたって盗掘されてきたとのこと。明治初年に大槻町内には、約200基以上の古墳があったといわれているが、いま墳丘をのこしているものも數少なくなっているので、ほ場整備事業区域の古墳の精査を、工事に先立って行い大槻古墳の記録保存の資料としたい。

調査は、樹木伐採、測量、現状撮影、抜根と封土の中心部を十字に直交する2本のトレンチを設定し、内部遺構の確認をする。

胡桃沢遺跡



胡桃沢、遺跡土器器出土状況

- 1 遺跡の種別 繩文 弥生 土師散布地
- 2 所在地 郡山市大槻町字向山
- 3 調査担当者 菅原文也
- 4 遺跡の概要

大槻町西南にある胡桃沢部落南方約200mに、周囲水田に囲まれた南北にのびる狭長の小丘陵がある。この小丘陵は現在畠地となっているが、東斜面200m×50m一帯に、繩文、弥生、土師片が散布している。

予備調査では、遺跡の中心部にピット5ヶ所を設定、最も高所のピットより土器2点出土する。表土下に0.15mの褐色土層があるが、これが遺物包含層で、この層の下は黄褐色砂礫層となっている。地山までは表土下0.5~0.7mあるが、東斜面は急激に傾斜している。発見され

た土師器は、いずれも壺形土器でふくらんだ腹部に小さい平底を有しており、うち1点は、球形の胴部から内側に斜に開く口縁部をもった小形壺である。いずれも古式土師特有の形状をみせている。

本調査は全面発掘とし、 $1\text{m} \times 40\text{m}$ のトレンチ十数本設定し遺構検出後拡張したい。ベルコンと用具、出土品保管場所が必要である。

鎌倉池北遺跡

- 1 遺跡の種別 弥生散布地
- 2 所在地 郡山市大槻町字矢地内字隠居面
- 3 調査担当者 馬目順一
- 4 遺跡の概要

矢地内部落北方約500mにある鎌倉池の北側約100m、周囲の田より一段と低くなった畠一帯に弥生の散布がみられる。散布は、 $10\text{m} \times 9\text{m}$ の里芋、小麦畠全面にみられ、繩文、弥生、土師、須恵の散布を見る隠居面遺跡の東方約500mの位置にある。

1m四方カビット、東西に3m間隔に2個設定した。表土より0.45mで黄褐色土層の地山に達するが、耕土より沈線文系の南御山II式の破片、數片を検出したが遺構は確認できなかった。大槻町周辺には、弥生遺跡も少なくなっているので、工事に先立ち全面発掘調査をしたい。

近くに大槻支所があるので、宿舎、遺物の保管場所などにも利用できる。用具はベルコンと普通の用具で調査できる。

隠居面遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文 弥生 土師 須恵散布地
- 2 所在地 郡山市大槻町矢地内字隠居面
- 3 調査担当者 永山倉造 田中正能
- 4 遺跡の概要

横山部落の南、大槻町本町より多田野へ通ずる旧道の北側で、東西にわびる微高地一の畠より繩文、弥生土師、須恵が散布している。散布は約 $10,000\text{m}^2$ にあたり、その一部は鎌倉池の北側までわびている。東方は繩文の散布が濃く、西方は土師、須恵が散布し、中間地帯に沈線のある南御山II式の弥生片がみられる。

表土下0.35mで遺物包含層に達し、その厚さ0.3mもあり、試掘坑より柱穴、床面も確認している。相当大規模な集落跡と考えられ、又長期間に亘なされた遺跡と思われる所以、全地域は場計画より除外して現状のまま保存したい。

もし保存できない場合は、遺跡の全面調査を必要とする。遺跡が広大なため調査の場合は地区割を行ない、各地区とも、 $3m$ 四方のグリット設定し、遺構が発見されればベルトコンベアーアーを使用し、遺構の検出にあたる。近くにある大槻町公民館を基地とし、現地にテントを張り休憩所とし、じゅうぶんな人夫と調査日程で調査をしたい。

矢 地 内 遺 跡

- 1 遺跡の種別 弥生 土師散布地
- 2 所 在 地 郡山市大槻町字北原35
- 3 調査担当者 田 中 正 能
- 4 遺跡の概要

矢地内部落北西標高 $278m$ 、周辺の水田よりやや高くなった畑地一面に、弥生、土師片の散布がみられる。北部は農道が走り、南はわずかに傾斜した畑にも点々としてみられる。

中心部に $1m \times 20m$ のトレンチを東西に $3m$ 間隔で 2 本設定した。 $0.4m$ で地山の黄褐色粘土層に達する。耕土は $0.3m$ であり、地層の変化も遺物包含層も遺構も発見できなかった。

当遺跡周辺は、縄文、弥生、土師、須恵の複合遺跡が連続してあり、昭和40年ごろ開田整地の折、ブルドーザーにより、これらの遺跡の一部が破壊されその土砂が運ばれたものと考えられる。

試掘の結果、本調査の必要はない。

庚 扱 原 古 墳 群

- 1 遺跡の種別 古墳群
- 2 所 在 地 郡山市片平町庚扱原11
- 3 調査担当者 田 中 正 能
- 4 遺跡の概要

出雲山（大槻山）西方 $100m$ 、大槻町福楽沢より片平町本町に通ずる道路の東側の洪積台地上に、相当数の古墳群が存在していた。

当遺跡は、戦後の開墾により封土を失ない、現在では付近の畑一面に多くの土師、須恵片の散布がみられる。地主の話によると墳丘は、径 $12 \sim 15m$ 、高さ $1m \sim 1.5m$ のものが多く、出土品はなかったとのことである。

中心部に $1m \times 7m$ のトレンチを設定した。表土下 $0.2m$ で赤褐色粘土層に達したが、内部構造は認められなかった。この遺跡は開墾時破壊されたとみられるので、本調査の必要はない。



深谷古墳

深谷古墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 郡山市片平町深谷
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要
標高 305m、深谷部落の西端に深谷神社が鎮守として祀られている。この神社の裏山の山頂部に、直径 8m、高さ 1.7m の円墳がある。この地高は片平町では最高に属しており、東南部は片平町を一望できる地域となっている。

古墳西側の封土は、数年前近くの中学生らによって盗掘されている。1.5m×1.5m、深さ 1m のビットを掘ったが、遺構、遺物は出土しなかったといわれている。

ボーリングによる地下探査や墳丘探査の行ない、また盗掘部の地層観察により古墳であることの確認ができた。今までこの古墳を四十粧遺跡と称していたが、今後は深谷古墳と呼称したい。この地域に古墳が残っていないので、是非保存しておきたいものである。

見物担遺跡

- 1 遺跡の種別 中世遺跡 館跡
- 2 所在地 郡山市片平町字菱池
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

片平小学校東北 750m、片平町本町より郡山に通ずる街道の南側で、掘に囲まれた田および畠一帯より、土師、須恵の敷布が認められる。中世にこの遺跡を破壊し平館を築造したもので、菱池館跡とよばれている。

中心部の掘に囲まれた水田に 3m のグリットを掘り、館跡の建築物の柱穴の検出に力を入れたい。建物遺構が発見されれば拡張し中世の館の全貌を明らかにしたい。また掘にトレンチを入れ廻り巾を確認したい。近くに片平町公民館があるので、宿舎、遺物の保管場所などに利用できる。

上原遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文 土師 須恵散布地
- 2 所在地 安達郡本宮町大字荒井字上原



上原遺跡全景

3 調査担当者

黒吉 明

4 遺跡の概要

上原遺跡は東北本線、五百川駅の南西約1.2km、五百川の形成した河岸段丘上にあって、本宮町大字荒井字上原から字諸子沢に統く段丘に位置している。

遺跡の規模は、約3ヘクターペ

ルに及ぶが、遺跡のはば中央部に十字形に交わる東西1m×134m、南北1m×152mの2本のトレンチを設定した。南北に走るトレンチをAトレンチとし、20mごとに8区画し、その北側2mずつ発掘した。東西に走るトレンチはBトレンチとし、30mごとに1m×2mの地区を設定、6区発掘した。発掘区の名称は、Aトレンチでは、北から順に、A-1、A-2……A-8区とし、Bトレンチは、西よりB-1、B-2……B-6区とした。

上原遺跡の地層は、砂礫ロームを基盤とし、その上に第3層、茶褐色土、第2層、黒褐色土、第1層、表土が堆積している。第4層の砂礫ロームは、洪積世のものであるが、第1～3層は沖積世に堆積したものである。

このうち遺物を包含するのは、第1～3層であるが、遺物の量が多いのは第2～3層である。

【Aトレンチ】

A-1からA-6までは、遺物包含層が0.6m以上の厚さを有し、縄文中期土器を豊富に包含し、特にA-3 A-6では1mを超えており、ピット状の遺構の存在が確認された。A-7になると包含層は薄くなり、A-8では、第2、3層が消失し、表土層から直接砂礫層に移行しており、遺物はほとんど発見されなかった。

A-2区ではローム層を掘り込んだ。ピット状の遺構が発見され、床面に縄文中期の完形品が発見された。A-5区では第3層の茶褐色土層を掘り込んだ形の遺構が発見され、床面に横倒しの状態で縄文土器の完形品が発見された。

またA-3、A-6区は、他の区画と比較し、遺物包含層が非常に深くまであり、ローム層を掘り込んだピット状の遺構が存在したと推定される。なお包含層が非常に薄いA-7区では、ピット状の遺構に埋納された縄文土器が発見された。

【Bトレンチ】

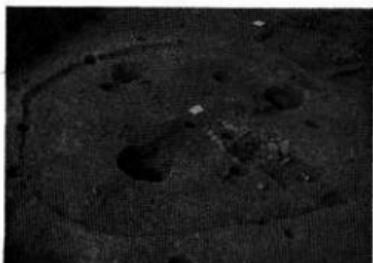
B-1からB-3区までは、第2、3層がほとんど見られず、遺物の発見は少なかった。しかしB-4からB-6区までは、豊富な遺物包含層があり、包含層の非常に薄いB-3でも、遺構と考えられるものが検出されている。

この上原遺跡は、表様よりみて3ヘクタールに及ぶ遺跡と推定される。このうち大部分が縄文遺跡で、南東部は土師、須恵の遺跡となっている。

縄文遺跡地域には、縄文中期の石組炉を伴う住居跡と直径1m前後のピット状遺構がかなりの密度で分布しているものと推定される。また豊富な縄文中期（大木8a式期から、大木10式併行のもの）土器、石器が遺存しているものと推定され、さらにこれらの遺構や遺物によって形成される聚落跡が良好な状態で保存されていること

が考えられる。

上原遺跡は、集落全体を総合的に研究できるという面で重要な遺跡であり、現状保存の方法を講じることが最も適切な処置であるが、は場整備工事により破壊されるならば、十分な体制で綿密な学術調査を行なうようにしたい。



堅穴住居跡

付記

この遺跡の保存について、県教育庁社会教育課大越原三郎課長、県耕地課団体営係長高野哲二氏、県安達南部は場整備事務所長斎藤一雄氏、本宮町長渡辺惣藏氏、本宮町教育委員会教育長高野貞一氏らが再三再四協議し、遺跡の中心部、1.7haを工事計画より除外し、現状のまま保存することになり、周辺部の遺跡を本宮町教育委員会が調査主体者、県文化財専門委員（日本考古学協会員、県考古学会副会長）梅宮茂氏が調査担当者となって、昭和45年8月22日より学術調査が行なわれた。

関下遺跡

1 遺跡の種別 土師須恵散布地

2 所在地 安達郡本宮町大字岩根字父五郎

3 調査担当者 目黒吉明

4 遺跡の概要

上原遺跡の西北約500m、五百川により形成された河岸段丘上にあり、開畑時相当量の土師、須恵の散布がみられた。

調査はほぼ南北に走る道路、本宮～堀の内線の東西両側に、南北の方向に2本のトレンチを設定した。西側のものをAトレンチ（2m×20m）、東側をBトレンチ（2m×10m）とした。両トレンチとも基本的層は3層に区分される。第1層、耕作土、第2層、黒褐色土、第3層、ローム層となっている。

Aトレンチよりは数片の土師器、須恵器片が発見されたのみで、遺構の確認はできなかった。

Bトレンチでは、土師器の細片と縄文土器片が発見されたが、遺構の検出はできなかった。

当遺跡は開畑時に破壊され、遺物包含層、遺構とも良好な状態で遺存するものは少ないと推定される。本調査の必要はない。

下 原 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師 須恵散布地
- 2 所 在 地 福島市松川町字下原
- 3 調査担当者 田 中 正 能
- 4 遺跡の概要

南下原遺跡の東部に接しており、土合館南方200m、米沢神社約北方の微高地で、 $50m \times 100m$ にわたり土師、須恵の散布がみられる。

遺跡の中心部に、東西南北に、直交する $1m \times 1m$ のグリットを30個入れ調査した。表土（耕土）中には、土師、須恵の混入がみられた。表土より地山まで0.3mで、遺構の確認はできなかったが、当時遺跡の北西部を開墾時土器の完形品が出土しているので、は場整備事業の工事前に本調査をしたい。

本調査では、遺跡の中心部にトレンチ数本を設定し、遺構が検出されれば拡張し、精査をしたい。畑地なので普通の道具とベルコンがあれば調査ができる。

南 下 原 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師 須恵散布地
- 2 所 在 地 福島市松川町南下原47の4
- 3 調査担当者 田 中 正 能
- 4 遺跡の概要

松川町南部を東流する柳川の北岸にあって、南に傾斜する微高地の面 $1000m^2$ にわたって土師、須恵の散布がみられる。

中心部に東西 $6m \times 1m$ のトレンチ、南北に $9m \times 1m$ のトレンチ2本を設定して調査した。表土中にも多くの土師、須恵の破片の混入がみられるが、0.3m下に黄褐色で地山に達し、地山上に住居跡および柱穴を確認できた。当遺跡には相当数の住居跡があるものとみられるので、本調査では $2m \times 50m$ のトレンチを東西に、10~15本設定し、集落の発見につとめる。近くにある松川支所を宿舎とし、用具はベルコンと普通の用具で調査できる。

東北縦貫自動車道関連公共事業地内遺跡一覧

1. 白河市

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
西 1 9	上荒屋遺跡	小田川字上荒屋	散布地	畑	八幡山南斜面の畠地、地下30cmより内黒土師出土
西 2 0	向田遺跡	" 向田	"	"	字向田31、鈴木清吉氏宅東の畠、内黒土師出土
西 2 1	深沢遺跡	" 深沢	"	"	小田川部落より芳賀須内部落の道路の中間、五十嵐栄博氏の畠、土師散布
西 2 2	柿之木平遺跡	" 柿之木平	"	"	宝積寺北東の畠、内黒土師散布
西 2 3	古内遺跡	" 古内	"	"	宝積寺東北300mの畠、土師散布
西 2 4	天王下遺跡	" 天王下	"	"	天王下17鈴木恒義氏宅南の丘陵の東北斜面の畠、内黒土師散布
西 2 5	扇ノ間遺跡	" 扇ノ間23	"	宅地	扇ノ間23佐藤道明氏宅地造成中土師器坏數個出土している。
西 2 6	一里塚遺跡	" 一里塚	"	畑	昭和44年河川改修工事の時(泉川)地下30cmより土師器(蓋付坏、かめ、など)出土している。

2. 西白河郡西郷村

西 2 7	豊城遺跡	小田倉字豊城41	散布地	畑	豊城41相川雅郎宅北の畠、土師器散布
西 2 8	一本松遺跡	" 一本松	"	田	八雲神社北西300m相川吉之助氏の水田より繩文土器出土

3. 岩瀬郡鏡石町

岩 4 5	熊野山遺跡	鏡田字熊野山	散布地	畑	熊野山西南斜面開墾時、土師器つぼ数個出土
岩 4 6	熊野山横穴群	" 熊野山	横穴群	山林	熊野山南側に開口している横穴数基がある。
岩 4 7	岡の台遺跡	久米石字岡の台	散布地	田 畑	隈戸川東岸河岸段丘上にあり開田時土師器かめが出土、現在でも内黒土師、須恵が散布している。
岩 4 8	宮西遺跡	" 宮西	"	畑	久米石部落西500m南北にのびた丘陵の東西斜面の畠、内黒土師散布

4. 郡山市

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
郡 9	南地藏谷地遺跡	太田字南地藏谷地	散布地	畑	美女池東200m田に囲まれた畑より土師、須恵器片出土
郡 27	藤ノ木 遺跡	三穂田大字川田字藤ノ木74	"	田	藤ノ木74佐藤喜代太氏南の田を開田中焼土とともに土師つぼ数個出土
郡 28	ひなた 日向 前 遺跡	" 日向 前 9	"	"	正法寺北方300mの水田下40~50cmの黒土層より繩文土器(前期)出土
郡 29	上五郎 遺跡 (上御靈)	" 上五郎 (上御靈)	"	畑	川田部落北西丘陵の東斜面の畑、繩文、土師、須恵の散布
郡 30	日向後 遺跡	" 日向後	"	"	日向部落北方丘陵の墓地北東斜面の畑、土師器片散布
郡 32	胡桃沢 遺跡	" 胡桃沢	"	"	岡部喜男氏宅南方200mの南北にびる小丘陵の東斜面繩文、弥生、土師の散布
郡 33	塗房 遺跡	大槻町大字塗房	"	"	塗房部落東20mの畑、繩文、土師、石器出土
1812	かの担 古墳	片平町庚担原	古 墳	"	片平町本町の南、達瀬川にそって東西に走る丘陵上に径4mの円墳があつたが盛掘されている。
1811	四十担 古墳 (深谷古墳)	" 深谷	"	山林	深沢部落北方、上伊豆島への道路沿いに円墳がある。
1809	中村館 遺跡	" 菱池	散布地	畑	片平小学校前バス停南の畑、繩文土器片散布
1784	堂山東 古墳	大槻町堂山東	古 墳	山林	堂山東の山林中に2基の円墳がある。
1783	堂山 古墳群	" 堂山	"	"	堂山の山頂と南斜面に20数基の古墳が分布している。
1793	新町 挖 遺跡	" 新町	散布地	道路	大槻本町より、多田野に行く道路の水道工事中土師、須恵器つぼを出土
1774	矢地内 遺跡	" 矢地内	"	畑 水田	矢地内部落北西部の畑、水田より土師、弥生土器の散布がみられる。
2651	太田 遺跡	" 太田	"	畑	太田部落西方の美女池北西500m、太田部落への道路の北側の畑より土師、須恵器片の散布がみられる。
2631	堂山北 古墳	" 堂山北	"	"	堂山の北の畑一帯より土師、須恵片の出土がみられる。古墳群が開墾のため封土を失なったものとみられる。
2623	駒 隅 遺跡	三穂田町川田字駒隠	"	"	宍原川南河岸段丘上の畑、繩文片の出土がみられる。
郡 34	中橋 遺跡	なかやらい 大槻町中橋	"	"	大槻公民館北西、高速道路敷地内、繩文、土師、須恵、瓦が出土している。昭和45年8月発掘調査、円筒窓、墨書き土器、工房跡を発掘

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
郡 3 5	石倉山遺跡	逢瀬町多田野字石倉山	散布地	烟	石倉山南斜面の烟、繩文土器、石器出土している。
郡 3 6	上 横 遺 跡	大槻町上横	"	"	中横遺跡東の烟、宅地化がすすめられている、土師、須恵、焼土がみられる。
郡 3 7	八 頭 遺 跡	" 八頭	"	"	西勝ノ木部落東500mの烟、土師、須恵の散布がみられる。
郡 3 8	西勝の木 遺跡	" 西勝の木 4	"	"	越栄作氏の宅地および南東の烟、繩文出土
郡 3 9	鎌倉池北 遺跡	" 矢地内字題居面	"	"	鎌倉池北20mの低湿の烟、弥生の出土がみられる。
郡 4 0	題 居 面 遺 跡	" 矢地内字題居面	"	"	横山部落南、鎌倉池西北300m東西にのびる微高地上より繩文、弥生、土師、須恵器、石器がみられる。
1814	漆 房 遺 跡	片平町漆房	"	"	片平町本町南1000mの烟、須恵散布
1792	胡桃沢 遺 跡	大槻町胡桃沢	"	"	安積大槻分校北の烟、須恵散布
1803	竹 の 内 遺 跡	河内町竹の内	"	"	福良沢部落北西750mの烟、繩文土器、石器の散布がみられる。
1813	見 物 担 遺 跡	片平町見物担	"	"	片平小学校東北750m神社周辺の烟、土師、須恵出土
1708	丸 山 古 墳	安積町成田字丸山	古墳群	山林 烟	水田に囲まれた丸山に3基の円墳がある。周辺は開畑されており、須恵器片の散布がみられる。
1732	一 人 子 遺 跡	三穂田町飼屋字一人子	散布地	烟	笛原川の南部台地、飼屋部落南東の烟より繩文土器、石鏃、石匕などの石器が出土している。
郡 4 1	庚 担 原 古 墳 群	片平町庚担原	古墳跡	"	出珪山西1000m、福良沢より片平町に通ずる道路の東側の烟、昭和のはじめ開拓され現在墳丘なし出土品ない
郡 4 2	高 森 遺 跡	" 磯塚	散布地	"	出珪山西350mの烟地、戦後開墾して畠となる。開墾当時、土師器片多数出土し、いまも散布がみられる。高速道敷地内を昭和45年12月調査小型のほりがま、住居跡出土

5. 安達郡本宮町

1959	上 原 遺 跡	大字荒井字上原	散布地	烟	諸子沢遺跡の西方を上原遺跡と分離、国道4号線沿いの名機牛乳工場の西の烟、繩文、土師、須恵器片の散布がみられる。
1956	関 下 遺 跡	" 岩根字父五郎	"	"	羽黒神社北西の水田に囲まれた烟、開畑時土師、須恵の散布がみられたが、現在は確認できない。

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
1957	下土淵遺跡	大字岩根字下土淵	"	"	日下部定男宅東の畠一帯より、縄文、土師須恵器片の散布がみられる。

6. 福島市

2102	下原遺跡	松川町字下原	散布地	畠	松川町にある土合館南約200m、米沢神社北方300mの桑畠、土師器の散布がみられる。
福5	南下原遺跡	" 南下原47の4	"	宅地	国道4号線東側にある木本製作所の北、中村吉雄氏宅地周辺から土師器片の散布がみられる。

◎新発見の遺跡の遺跡番号には、仮番号を付してあります。

調査を終えて

東北縦貫自動車道沿線各地の市町村では、建設工事計画に併行して、は場整備計画がすすめられ、その一部は工事が始められております。この中で昭和46年に工事が行なわれる。西白河郡西郷村から、福島市松川町までの、3041haにわたる地域の遺跡所在調査、予備調査を行いました。遺跡所在の調査した面積、新しく発見した遺跡および所在調査員、調査補助員はつぎのとおりです。

市町村名	事業面積 ha	既知遺跡数	新 遺 跡 見 数	遺跡総数	調査員名	調査補助員
西郷村	127	0	2	2	真成 船田 鈴木 寿俊	高木次郎
白河市	95	0	8	8	寺成 島田 喜千夫 俊	遠藤英男
鏡石町	105	0	4	4	高成 宮田 八郎 俊	横山喜久夫
郡山市	1856	16	16	32	金城 岩田 佐藤 生一 崎辺 成田 克俊	古川猛
本宮町	434	3	0	3	菅野 全己 藤田 定興 俊	遠藤文伍誠
福島市	424	1	1	2	當村 川田 晴夫 謙 成田 克俊	丹治有頼志
計	3041	20	31	51		

なお調査に要した人員は、調査員、調査補助員、県・地教委担当、人夫等あわせて延170人、調査日数延53日を費やし、調査に500,000円を要しております。

予備調査は、所在調査で発見した遺跡総数51か所のうち重要と思われるか所の遺跡について坪掘り程度の部分を行ないましたが、地主の承諾がなく、じゅうぶんな資料が得られないところもありました。予備調査をお願いした調査員は、下記の方々です。

氏名	住所	所属	備考
田中正能	郡山市赤木町20の2	郡山市地方史研究会	福島県文化財専門委員
渡辺一雄	いわき市平泉崎字辻道20	いわき市立草野中学校	福島県文化財専門委員 日本考古学協会員
小瀧利意	会津若松市門田町黒岩内63-3	会津若松市観光企画課	"
目黒吉明	福島市森合字屋敷下10	福島県文書学事課	日本考古学協会員
馬目順一	いわき市平5丁目1	自営	"
永山倉造	須賀川市北町72	須賀川市立博物館	発掘技術者研修会終了
菅原文也	いわき市平鍛冶町22	いわき市立平第一中学校	"